

A 案

多様性・包容力

数ある個性を長崎の魅力と捉え、それを長崎のエネルギーに

みんなが咲き、ながさき。

みんなが咲き、ながさき。

▼

「me（県民ひとりひとり）+ながさき」という、
「ながさき」そのものから生まれた自分ごと化しやすい言葉。

▼

▼

▼

ひとつひとつの愛着、ひとりひとりの希望が輝くからこそ、
エネルギーに溢れた、ひとつの長崎であるというメッセージ。

みなが咲き、ながさき。

オリジナリティと普遍性

「me（県民ひとりひとり）+ながさき」という、「ながさき」そのものから生まれた他の都道府県では言うことができない言葉であり、すべての長崎県民を主役にする長崎らしいメッセージです。食や文化、伝統、暮らし、平和など、すべての長崎の構成要素の源となる「人」という本質を表現することで、何年経っても古くならない普遍性が生まれます。

多様性と県からの発信としての最適性

長崎は、それぞれのまちごとに個性的で魅力的な歴史や文化、食があります。「みなが咲く」ということで、すべてのまちの魅力を尊重し、それが長崎の魅力、エネルギーであることを伝えます。また、暮らしや子育て、教育、福祉、経済、地域活性、移住などに関しても、誰も取りこぼさない「県民（インナー）」に対しての未来への強い意志であるとともに、観光や物産など「県外（アウター）」にアピールしていく際にも、活力に溢れていることが付加価値となって、より魅力が増します。

覚えやすさと愛着

「みなが咲き」は、長崎県民にとって最も身近な言葉への気づきであり、リズムも良いため、小さな子供からお年寄りまで、一目見ただけで覚えられる言葉です。愛着・誇り・希望をもってもらうためには、覚えやすさ、口にしやすさが大切です。また、県外の人や外国の方が見ても理解しやすく、全国への波及も期待できます。

長崎は「ひと」で、できている。

豊かな食も、青い海も、1,479もの島々も。

伝統的な文化も、異文化への愛も。

そして、未来の可能性も。

「ひと」を大切にすることこそ、

交流が生まれ、新しい活力が生まれ、

それぞれの土地で、魅力的な個性がたくさん躍動していく。

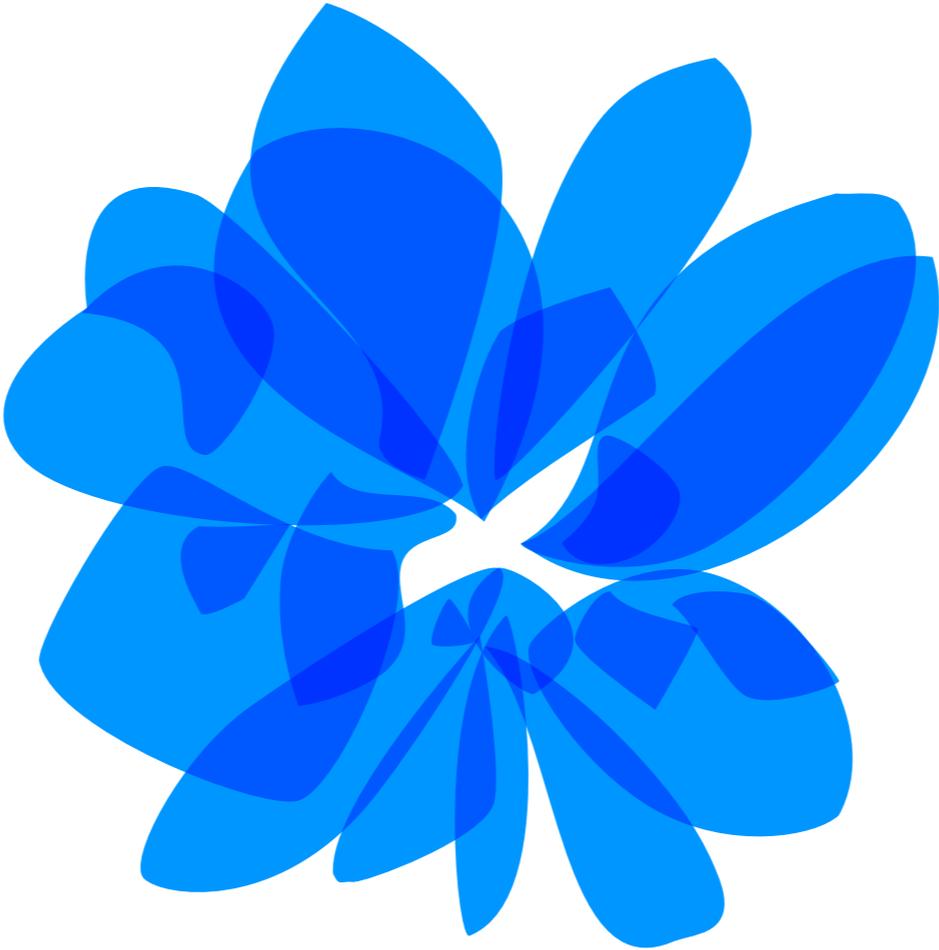
それは、長崎の未来を動かすエネルギー。

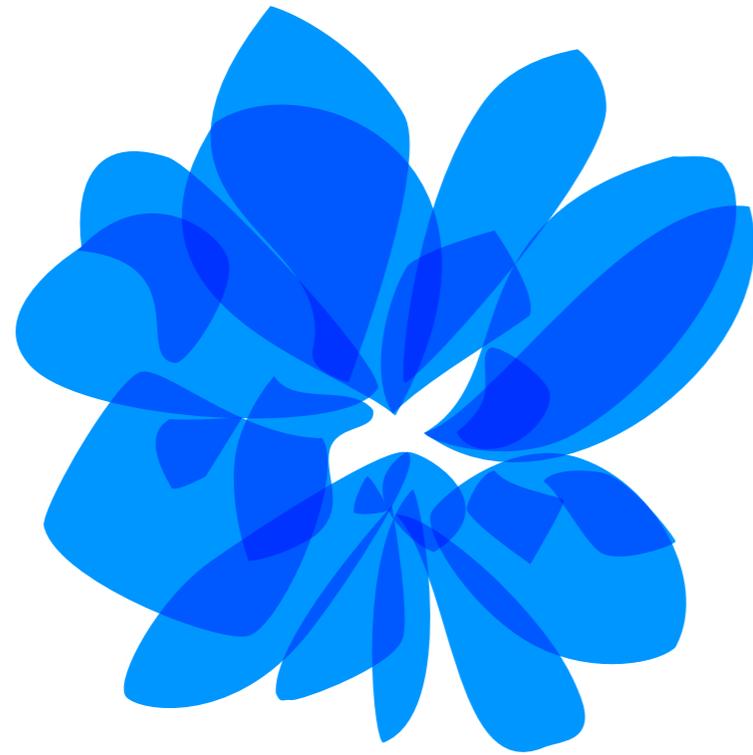
ナガサキ、NAGASAKI、いろいろな顔があるけれど、

ひとつひとつの愛着、ひとりひとりの希望、

すべてが輝いて、ひとつの長崎です。

みなが咲き、ながさき。





みなが咲き、ながさき。

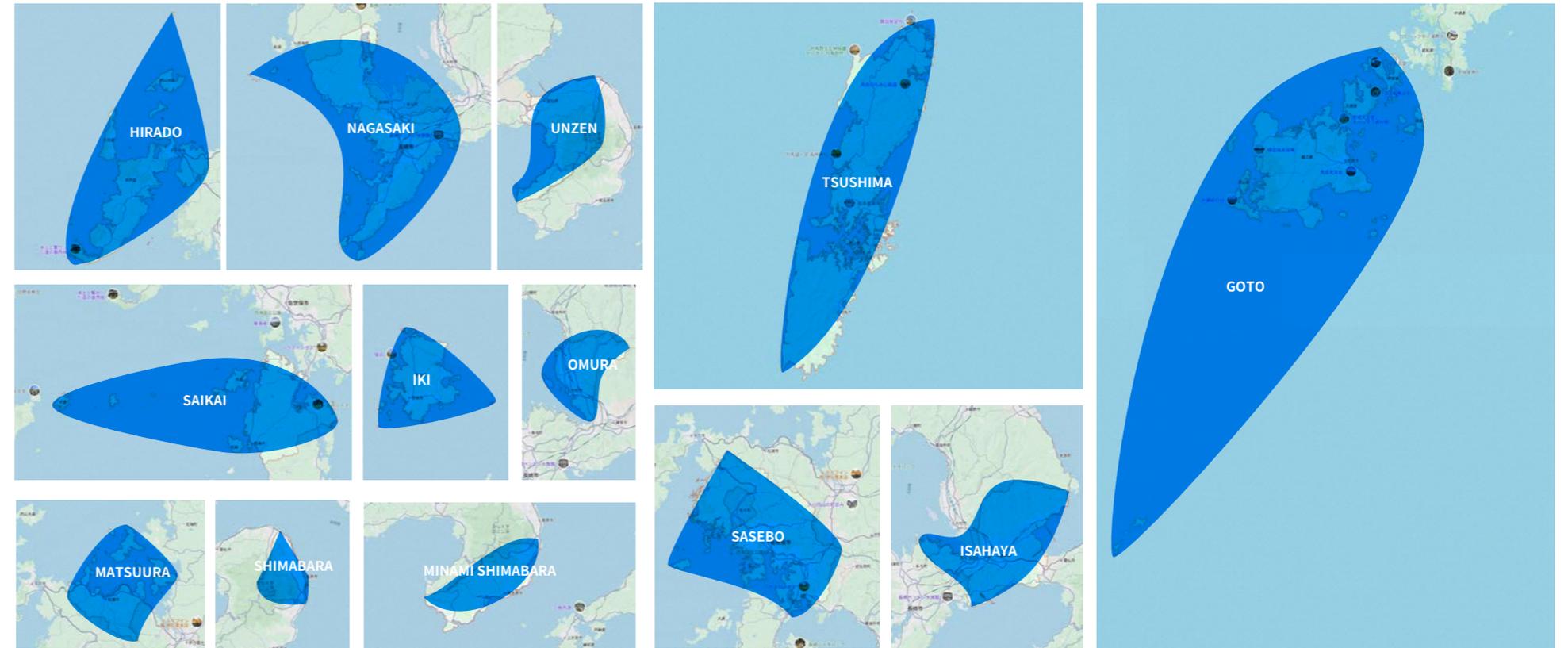
デザインの意図：マークを形成する 21 のエレメントの集合体で、ひとりひとりの魅力が咲くことを表現。

五島市の場合

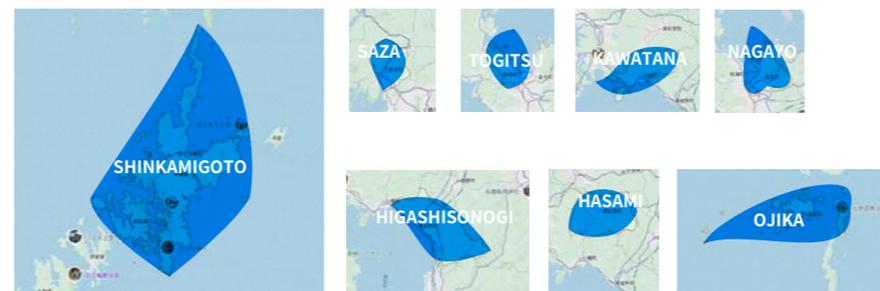


21 市町

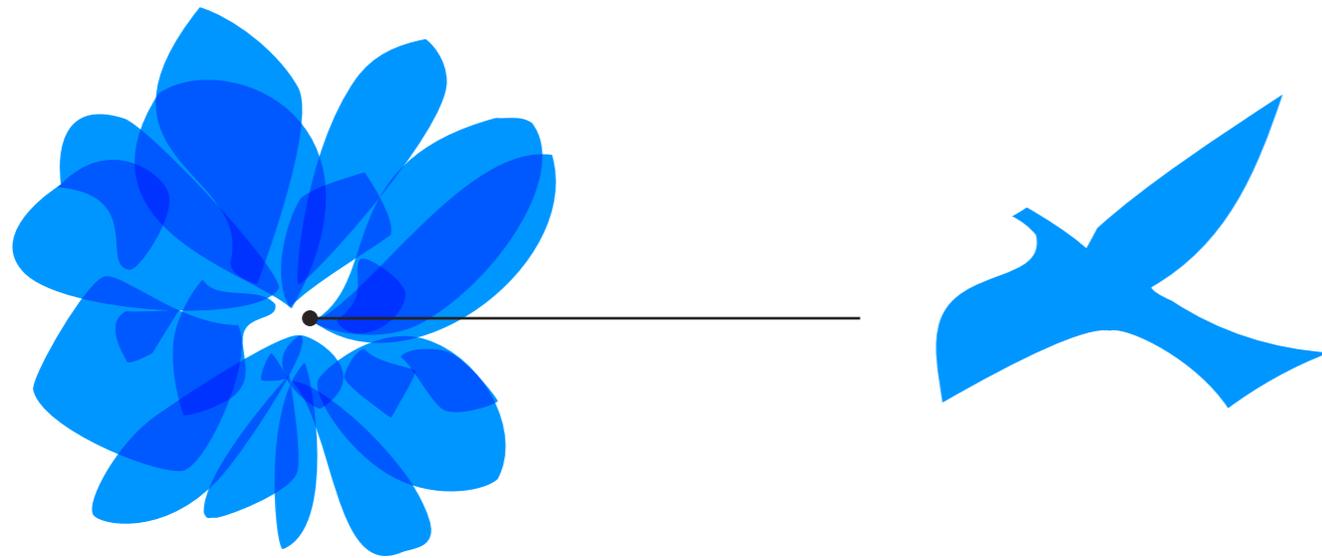
13市



8 町



デザインの意図



心の奥底に在る平和への想いを、
平和の象徴である鳩をモチーフに
形象化してシンボルマークの中心に配置。

カラー展開

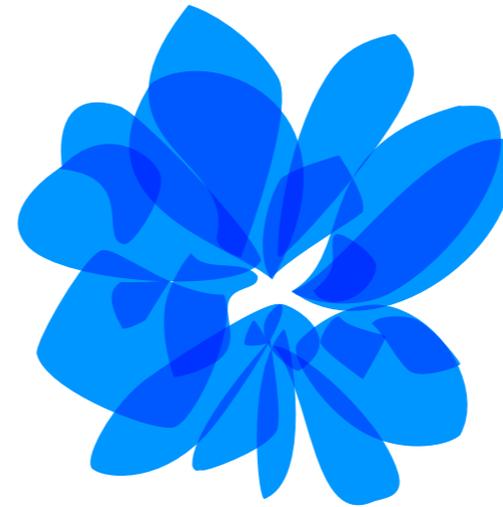
暮らしや子育て、教育、福祉、経済、地域活性、移住などカテゴリー別での展開も可能。



みんなが咲き、
ながさき。



みんなが咲き、
ながさき。



みんなが咲き、
ながさき。



みんなが咲き、
ながさき。

※カラーの種類は仮となります。